

第5章 これからの自治会の姿

方向性と論点の整理

第1章から第4章まで、さまざまな側面から、自治会の現状と課題について検証しました。その結果をもとに、これからの自治会の姿について、方向性と論点を整理しました。

自治会内部の環境

	自治会の強み	自治会の弱み
全地域 共通事項	<ul style="list-style-type: none">・地域の特性に合わせた事業の実施。・自治会役員の責任感が強い。・地域に知識や技能を持つ人がいる。	<ul style="list-style-type: none">・自治会役員の固定化、高齢化。・役員のなり手がいない。・自治会行事への参加者の固定化。・自治会の役員の負担が大きい。・地区集会所の老朽化。
人口 増加地域	<ul style="list-style-type: none">・子どもを対象とする行事への参加率が高い。	<ul style="list-style-type: none">・自治会規模が大きく、細部までの周知に欠ける。
人口 減少地域	<ul style="list-style-type: none">・団塊の世代の地域活動への参加。	<ul style="list-style-type: none">・高齢化により、活動に参加できない世帯が増えている。

自治会を取り巻く外部環境

	チャンスとなる環境	回避すべき脅威
全地域 共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊かである。 ・地域に愛着がある人の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯が増え、自治会活動に参加することが難しい世帯が増加している。 ・市からの委嘱委員等の推薦依頼、依頼業務が多い。
人口増加 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地開発により、新しい住宅が建ち、若い世代が増えた。 ・交通の便が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進行し、親と子どものみの世帯が増加している。 ・地域のつながりが希薄である。
人口減少 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史が古く、地域に顔見知りが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内に空き家が増えている。 ・地域の商店が閉店し、近くに買い物をする場所がない。 ・高齢者のみの世帯、単身世帯が増加している。

これらの自治会の「強み」と「弱み」、自治会を取り巻く「チャンスとなる環境」「回避すべき脅威」の4つの要素を組み合わせることで、これから目指すべき方向性を導き出しました。その実現のため「これからの自治会の姿」を次のとおり提案します。

1 必要とされる自治会を目指します

核家族化や世帯の小規模化が進んでいるため、地域に声を掛け合う人や、困ったときに相談できる人がいることは、地域の安心・安全につながります。

また、災害への備え、地域の交通安全や防犯の対策は、個人や世帯では限界があります。特に、大規模災害発生時に一番威力を発揮するのは、地域のつながりです。

このため、地域の人と人とのつながりをつくり、個人や世帯で解決できない課題を地域で解決する基盤としての役割を果たし、必要とされる自治会を目指します。

(1) 地域のつながりをつくります

自治会員で班を構成することで、近隣の世帯とあいさつや会話を交わすきっかけをつくります。また、班の活動を通じて、地域でお互いに助け合う環境を醸成します。

改善ポイント

- ① 地域で情報を共有
 - ・自治会の活動内容や、地域の情報をまとめたものを定期的に作成し、会員への配布・回覧する。
- ② 転入してきた方、未加入の方への声かけ
 - ・自治会の役割や活動内容をまとめた案内を作成し、転入してきた方、未加入の方への声かけをする。
- ③ ホームページやSNSを活用した情報発信
 - ・インターネットで必要な情報を得る若い世代へ、ホームページやSNSを活用し地域の情報を届ける。

(2) 防災・防犯のネットワークをつくります

防災・防犯により地域の安全を確保するため、地域の状況を把握し、地域での助け合いのネットワークをつくります。また、いざという時に地域主体での活動ができるように備えます。

改善ポイント

① 地域の課題の共有

- ・滝沢市防災マップなどを活用し地域の課題を整理し共有することで、地域全体の当事者意識を高める。

② 地域の状況把握

- ・ご近所での声かけ、災害時に避難が困難な方への訪問、登下校時のあいさつや声かけ等を通じて、地域の状況を把握し、必要に応じて関係機関につなげる。
- ・自治会内の情報共有だけではなく、学校、地域で活動をする企業等との連携を進める。

③ 地域の特性にあわせた活動

- ・自然環境、道路状況、世帯構成等の地域の特性にあわせた訓練や研修会を実施し、ご近所との助け合いの意識啓発をする。
- ・これらの活動を自治会行事に組み入れるなど、多くの世帯が参加できるようにする。

(3) 地域のニーズに対応した活動をします

地域環境の変化やライフスタイルの多様化による地域のニーズに合わせた活動と、柔軟な組織づくりをします。

改善ポイント

① 地域のニーズに合わせた事業

- ・事業の必要性や優先順位を見直し、住民ニーズに合わせた事業を実施する。

② 柔軟な組織づくり

- ・地域の高齢化による世帯数の減少や大型宅地開発による世帯増加など、地域の世帯状況の変化に合わせ組織を見直す。
- ・多くの方がさまざまな形で企画・運営に関わることができるよう、柔軟な体制をつくる。

(4) 行政と地域をつなぎます

自治会として地域の思いを集約し、課題解決に向け地域で合意した内容を行政や関係団体と共有します。また、地域の方が個人や世帯で解決できない課題を抱えたとき、行政の担当窓口や関係機関等とつなぐ役割を果たします。

改善ポイント

- ① 地域の意見集約
 - ・地域の方の困りごとや地域に対する思いを把握し、市民主体では解決できるかどうか課題を整理・集約する。
- ② 地域の合意形成
 - ・課題解決に向けた方向性について地域の合意ができるよう、地域で協議する機会を設ける。
- ③ 関係機関等との連携
 - ・地域の方が個人や世帯で解決できない課題を抱えていることを把握した際は、民生児童委員等と連携し、どこに相談すればいいか案内する。

2 参加しやすい自治会を目指します

核家族化や高齢化により、自治会活動に参加しづらい世帯があります。

また、共働き世帯の増加、定年延長等により、日中に自宅にいない場合や、自宅にいる時間が不規則な場合があり、自治会活動に関心があっても参加できない場合があります。

このため、様々なライフスタイルの方が少しでも活動できるよう、参加しやすい自治会を目指します。

(1) 多様な事業運営の仕組みをつくります

活動全般に参加するのは難しい、活動時間が合わないと考える方に、少しでも活動に参加してもらえる工夫をします。

また、将来余裕ができた時、運営に関わってもらえる工夫をします。

改善ポイント

① 活動の時間帯

- ・地域の重要な会議は、多くの方が参加しやすい時間帯に開催する。
- ・休日のみ運営に携わる役割を設ける。

② 限定的な参加

- ・企画や事業単位で運営に参加してもらおう仕組みをつくる。

③ 情報共有

- ・一堂に会する打合せの回数を減らし、軽微な連絡等を行うインターネットを活用した情報共有の仕組みをつくる。

④ 気軽に参加できる行事

- ・子どもから高齢者まで気軽に参加できる行事を企画し、参加のきっかけづくりをする。

(2) 子育て世帯との接点をつくります

核家族化が進み、子育てに忙しく参加するのが難しいと考える世帯と自治会との接点をつくり、少しでも活動に参加してもらえる工夫をします。

改善ポイント

- ① 子ども向けイベント
 - ・地域の行事に、家族ぐるみで参加できる子ども向けの企画を設ける。
- ② 地域の伝統行事・伝統芸能
 - ・地域への関心や愛着を持てるよう、伝統行事や伝統芸能に参加できる機会を提供する。
- ③ 関係団体との連携
 - ・PTAや学校等、子育て世帯と関わりのある団体と連携した取り組みやイベントを実施する。
- ④ 子どもの見守り
 - ・地域でのあいさつや声かけを通して、地域全体で子どもを見守る。

(3) 地域と関わりをもてる機会をつくります

今まで仕事中心の生活で活動時間が合わなかった方や子育てで忙しく地域との関わりが持てなかった方が、定年退職や生活環境の変化により、地域と関わりがもてるようになった際、参加しづらさを感じずに活動に参加してもらえる工夫をします。

改善ポイント

- ① 集いの場づくり
 - ・気軽に参加できるお茶のみ会や趣味のサークルなど、地域と関わりがもてる場をつくる。
- ② 趣味を披露する機会づくり
 - ・趣味で作品を制作する方や特技などを持つ方が、地域で披露できる機会をつくる。
- ② 経験や技能を活かす機会づくり
 - ・仕事での経験や技能を持つ方が、地域で活躍できる機会をつくる。

(4) 高齢者の参加しやすい環境をつくります

年齢を重ねることにより活動に参加が難しくなった方や介護のために活動に参加する時間を持ってない方が、地域との関わり続けられるような環境をつくります。

改善ポイント

① 多様な参加方法

・高齢者が支援や介護が必要となり、輪番制で行う活動等への参加が難しくなった場合に、その状況に合わせた柔軟な参加方法を考える。

② 声かけ、見守り

・ご近所でのあいさつや声かけや災害時に避難が困難な方への訪問、地域とのつながりを持つ機会をつくる。

③ 関係団体等との連携

・日頃から、社会福祉協議会や民生児童委員等と連携し、自治会だけで支援が困難な場合は必要に応じて関係機関につなげる。

3 負担の少ない自治会を目指します

自治会の活動は、地域の清掃、交流行事、防災・防犯活動など多岐にわたります。それらの活動は地域のために必要なものですが、運営に携わる自治会役員の負担が大きくなっています。

このため、自治会に参加する誰もが負担を感じることなく活動できるよう、負担軽減のための見直しや、担い手へのサポートのための体制づくりを行います。

(1) 事業の内容を見直します

今までの自治会活動について、地域で必要とされている活動と実施している活動の方向性があるか、運営に携わる方の負担が大きくなっているものや必要性が低くなっているものがあるかを振り返り、今後の活動内容を検討します。

改善ポイント

① 事業の最適化・スリム化

- ・事業が効率的、効果的に実施できているか振り返り、最適な開催時期、予算、内容を検討する。
- ・事業の時間や回数を減らし、事業規模を小さくする。
- ・運営が難しい事業は中止の判断をする。

② 事業の共有化

- ・事業を運営する手順(日程、分担、予算)などを共有できる仕組みをつくる。
- ・次年度の運営に携わる方への引継の仕組みをつくる。

③ 事業実施の工夫

- ・近隣の自治会や地域の関係団体や企業など合同で事業を実施する。
- ・学生ボランティアに企画・運営への参加を呼びかける。

(2) 運営規模の適正化を図ります

自治会活動は、地域の人と人のつながりが基盤となり行われているため、参加者がお互いに交流できる範囲での活動が望ましいため、運営規模の適正化を図

ります。また、運営規模を適正化することにより、運営する方の負担を軽減します。

改善ポイント

- ① 下部組織の編成
 - ・地域内で大型宅地開発などにより世帯が増加している場合は、必要に応じて区やブロックを編成し、参加・運営しやすい活動を行う。
- ② 近隣自治会との連携
 - ・世帯が減少している場合は、自治会の枠組みを残しつつ、近隣自治会と連携するなど、活動しやすい規模の事業を行う。
 - ・必要に応じて、地域を取り巻く環境、歴史的なつながりや自主性を尊重しつつ、自治会の区域の見直しをする。

(3) 活動の担い手をサポートします

自治会活動の担い手不足を解消するため、参加しやすい自治会運営の方法を考えます。また、新しい担い手の方を助ける仕組みをつくります。

改善ポイント

- ① 段階的な役割分担
 - ・初めて自治会運営に関わる方には運営の一部を担ってもらいながら、活動の全体像や作業内容を理解してもらい、次に企画を担ってもらう。
- ② 複数体制での運営
 - ・活動の企画運営を複数体制で行うことにより、前任者と新しい担い手が重複する期間を設ける。
- ③ 運営方法の引継ぎ
 - ・新しい担い手が、簡単に自分の役割を理解できるよう、自治会の活動ごとに、スケジュールや、作業内容、予算等がわかる資料をつくる。
- ④ 役割を担う期間を決める
 - ・引き受け手を増やすため期間を区切った役割分担を行い、期間が終わったら次の担い手と入れ替わる環境をつくる。